

平成28年度インテリアプランナー試験 学 科 試 験

試 験 地	受 験 番 号	氏 名
	—	

問 題 集

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

1. この問題集は、表紙を含めて**12枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四枝択一式**です。
4. **解答は**、各問題とも**一つだけ答案用紙の解答欄**に所定の要領ではっきりとマークして下さい。
5. **解答に当たり、適用すべき法令**については、**平成28年1月1日**現在において施行されているものとします。
6. 解答に当たり、**地方公共団体の条例**については、**考慮しないこと**にします。
7. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます**(中途退出者については、持ち帰りを禁止します)。

〔No. 1〕 近代の芸術運動とそれに関係する人物名との組合せとして、最も不適當なものは、次のうちどれか。

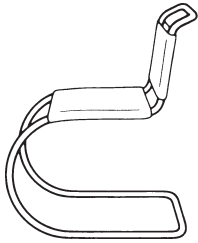
1. デ・ステイル ————— ヘリット・トーマス・リートフェルト
(Gerrit Thomas Rietveld)
2. ドイツ工作連盟(DWB) ————— ペーター・ベーレンス
(Peter Behrens)
3. アーツ・アンド・クラフツ運動 ————— ウィリアム・モリス
(William Morris)
4. ゼツェション(分離派) ————— マルセル・ブロイヤー
(Marcel Breuer)

〔No. 2〕 住宅に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適當なものは、次のうちどれか。

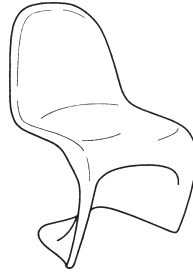
1. コーポラティブハウス ————— 同一敷地内に住むことを希望する者が組合をつくり、住宅の設計から管理までを運営する集合住宅
2. シェアハウス ————— 数人がそれぞれプライバシーのある個室をもち、トイレ・浴室・キッチンなどを使い合っ
て住む住宅
3. ケアハウス ————— 常時介護が必要で、家庭での生活が困難な高齢者のための施設
4. コレクティブハウス ————— 共同で住むことを希望する者が集まり、個人の専用住戸とは別に共用空間を設け、食事や家事の一部を共同で運営する集合住宅

〔No. 3〕 図に示す椅子と作家名との組合せとして、最も不適當なものは、次のうちどれか。

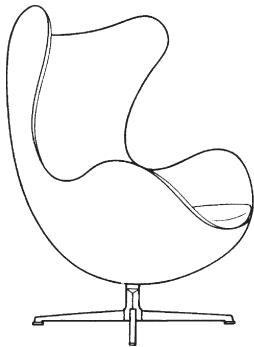
1. ミース・ファン・デル・ローエ
(Mies van der Rohe)



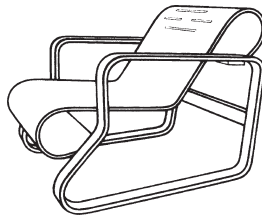
2. エーロ・サーリネン
(Eero Saarinen)



3. アルネ・ヤコブセン
(Arne Jacobsen)



4. アルバー・アアルト
(Alvar Aalto)

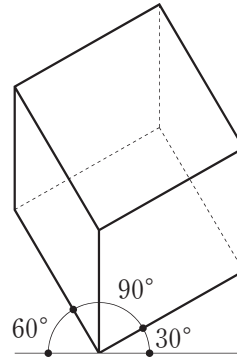
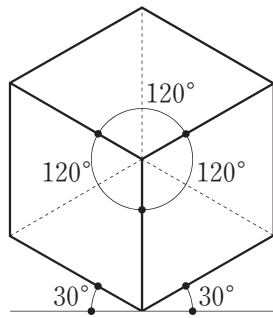


(注)No.3については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。
図の出典：「インテリア学辞典」(壁装材料協会発行、1995年)

[No. 4] 投影図とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

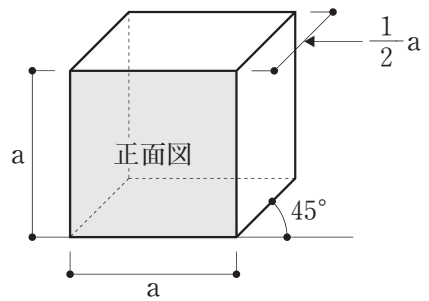
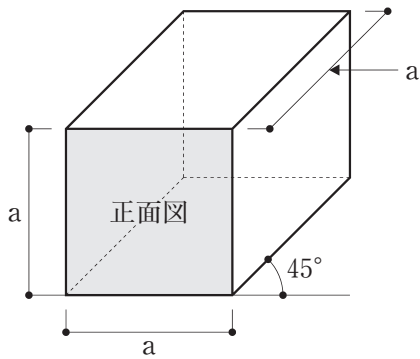
1. アイソメトリック(等角投影図)

2. ダイメトリック(二等角投影図)



3. カバリエ図

4. キャビネット図



〔No. 5〕 人体各部位と身長(H)を基準とした人体寸法の略算値との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 肩幅 ————— 0.25H
2. 下腿高 ————— 0.25H
3. 座高 ————— 0.55H
4. 上肢挙上高 ————— 1.5H

〔No. 6〕 高齢者が居住する住宅の階段の設計に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 階段の壁面に、踏面の先端からの高さが800mmの位置に手すりを設けた。
2. 階段の手すりの断面形状を、握りやすいように直径40mmの円形とした。
3. 階段の蹴込み寸法を、つま先の引っかかりを避けるために、40mmとした。
4. 階段の蹴上げ寸法を150mm、踏面寸法を300mmとして、蹴上げの寸法の2倍と踏面の寸法の和の値を600mmとした。

〔No. 7〕 環境・省エネルギーに関する次の用語の組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. A P F ————— 通年エネルギー消費効率
2. B E L S ————— 建築物省エネルギー性能表示制度
3. C A S B E E ————— 建築環境総合性能評価システム
4. P A L * ————— 建築設備のエネルギー効率

〔No. 8〕 光環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 照度とは、ある方向から見た面の明るさを示す指標である。
2. 人の目が光として感じることは、約380～780nmの波長の放射である。
3. 人の目が明るさの変化への順応に要する時間は、明順応より暗順応のほうが長い。
4. 明視の四条件とは、「視対象の大きさ」、「視対象の明るさ」、「視対象と背景の対比」及び「見る時間の長さ」である。

〔No. 9〕 室内の温熱環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 温熱環境の六要素は、「空気温度」、「湿度」、「気流」、「放射温度」、「代謝量」及び「着衣量」である。
2. 予測平均温冷感(PMV)とは、快適方程式に基づき環境温度を温冷感尺度で評価した値である。
3. 作用温度とは、空気温度と湿度から求められる感覚温度である。
4. グローブ温度とは、周囲からの熱放射の影響を考慮した温度である。

〔No. 10〕 色彩に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. マンセル表色系における明度は、完全な白を0、完全な黒を10として表示される。
2. マンセル色立体では、中心軸に近いほど彩度の低い色である。
3. 補色の関係にある二つの色を混ぜ合わせると、無彩色になる。
4. 明所視において同じ比視感度である赤と青であっても、暗所視においては、赤より青のほうが明るく見える。

〔No. 11〕 事務所ビルにおける空気調和設備の省エネルギー手法に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 空気調和設備における搬送動力の低減を図るため、定水量方式や定風量方式を採用した。
2. 冬期や夏期において、在室人員に応じて取入れ外気量を減らした。
3. 外気温の下がる夜間に自然換気を行い、冷気を建築物の躯体などに蓄熱させることで翌日の冷房負荷を削減した。
4. 外気温が室温よりも低い時期に、室内に取り入れる外気量を増加させて冷房の代わりとした。

〔No. 12〕 給排水衛生設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. バキュームブレーカーは、吐水した水又は使用した水が逆サイホン作用によって給水管に逆流するのを防止する器具である。
2. 各個通気方式は、一般に、伸頂通気方式に比べて、通気の実効性が高い。
3. 住戸内の給水・給湯用配管に用いられる[・]さ[・]や管工法とは、ポリプロピレンなどの[・]さ[・]や管内に給水・給湯管を通す方式である。
4. 洗落とし式は主に和風便器で使用されており、噴射口から洗浄水を強く噴出させ、その圧力で汚物を排出する水洗式大便器の洗浄方式である。

〔No. 13〕 壁面におけるせっこうボードの施工方法に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. コンクリート下地に、せっこう系接着剤をだんご状に塗り付け、せっこうボードを直張りした。
2. 鋼製下地に、せっこうボードを釘を用いて取り付けた。
3. 格子組にした角材に、せっこうボードを釘と接着剤を用いて張り付け、木造住宅の真壁の下地とした。
4. せっこうボード下地に、合成樹脂エマルジョンペイント塗りとした。

〔No. 14〕 開口部に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 内倒し窓は、突出し窓に比べて、水密性が高い。
2. 合成樹脂製のサッシは、アルミサッシに比べて断熱性が高い。
3. 合わせガラスは、2枚の板ガラスの間に中間膜を挟んで接着したもので、ガラスが破損しても破片の大部分は、飛散しない性質がある。
4. 頂側窓は、高所にある鉛直又は鉛直に近い窓のことで、越屋根やのこぎり屋根などに適用される。

〔No. 15〕 木造住宅における壁、床等の取合い部分と、その部分に用いられる部材との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

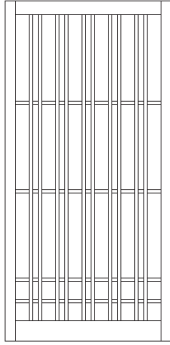
1. 洋室の壁と窓下枠の板材 —— 膳板
2. 真壁と床の間の地板 —— ぞうきんずり
3. 壁と階段 —— 蹴込み板
4. 壁と天井 —— 回り縁

〔No. 16〕 壁装に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

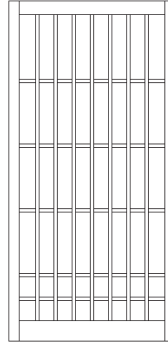
1. 漆喰^{しっくい}塗壁は、防火性能を有する。
2. 天然木材であっても、薬剤処理などにより不燃性能を有するものがある。
3. 珪藻土^{けいそうど}を素材とした塗壁は、調湿性に優れている。
4. せっこう^{せっこう}プラスター塗壁は、耐水性に優れている。

[No. 17] 図に示す建具とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

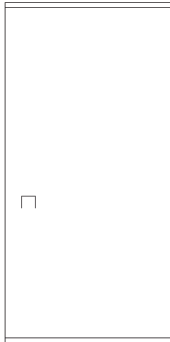
1. 吹寄せ格子戸



2. 子持^{こもち}格子戸



3. 太鼓張^{ふすま}り襖



4. 舞良^{まいらど}戸



〔No. 18〕 カーテン・ブラインドに関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. カーテンボタン ————— カーテンに直接手を触れず開閉する場合に用いる手引きのことである。
2. ベネシャンブラインド ——— 鋼製又はアルミニウム合金製のブラインドを水平に組み立てたものである。
3. ドレープ ————— 織物ではなく編み物で、糸の絡み合いや糸がかりにより、隙間模様を作ったものである。
4. バーチカルブラインド ——— ヘッドレールに組み込まれた複数のキャリアーにルーバーを吊り下げたものである。

〔No. 19〕 畳に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 畳は、畳寄せより高くなるように敷く。
2. 畳表は、い草以外に和紙や化学繊維を用いたものがある。
3. 畳床は、稲わら畳床、稲わらサンドイッチ畳床、建材畳床に大別される。
4. 畳寸法は、本間(京間)、三六間(中京間)、五八間(江戸間)が標準寸法として規定されている。

〔No. 20〕 カーペットに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. オフィス等で使用されるタイルカーペットは、ピールアップ形接着剤により直張り工法で施工される。
2. ウィルトンカーペットは、その製法上の特徴により、織糸は2～5色が一般的なカーペットである。
3. 金華山織りは、手織り^{だん}緞通である。
4. アキスミンスターカーペットは、多色使いのできる機械織りカーペットである。

〔No. 21〕 給湯設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 潜熱回収型給湯器は、従来、水蒸気として大気に放出されていた潜熱を回収し、これも給湯に利用するものである。
2. CO₂冷媒ヒートポンプ給湯器は、化学反応によってCO₂が生成される際の熱を、給湯に利用するものである。
3. ガスエンジンコージェネレーションシステムは、都市ガスを燃料としてエンジンで発電し、その排熱を給湯に利用するものである。
4. 家庭用燃料電池は、都市ガス中の水素と空気中の酸素を反応させて発電し、その排熱を給湯に利用するものである。

〔No. 22〕 窓まわりの装置・設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 窓システムにおいて、日射による窓部からの熱負荷低減を図るには、一般に、エアバリアよりダブルスキンのほうが効果が高い。
2. Low-Eガラスを使用した複層ガラスにおいて、一般に、室内側より屋外側にLow-Eガラスを用いるほうが、暖房時の断熱性が高い。
3. 複層ガラスにおいて、一般に、空気よりアルゴンガスを中間層に充填したほうが断熱性が高い。
4. 窓の屋外側に設置する外付けブラインドは、一般に、室内側に設置するブラインドに比べて、日射による熱負荷の低減効果が高い。

〔No. 23〕 排煙に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 機械排煙の区画と自然排煙の区画が隣接する場合、その境界部は、防煙垂れ壁で区画することが望ましい。
2. 小さな室に機械排煙設備の排煙口を設けると、排煙時に扉の開閉障害を生じるおそれがある。
3. 防煙垂れ壁を設けて防煙区画面積を小さくすることにより、煙層が早く形成され、排煙効率を高めることができる。
4. 天井チャンバー方式は、排煙吸込口をバランスよく配置することにより、間仕切りのレイアウトのフレキシビリティを高めることができる。

〔No. 24〕 建築物の火災安全計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 不特定多数が利用する物品販売店舗において、エスカレーターを補助的な避難経路として計画した。
2. 避難階段において、階段の有効幅より、階段入口部分の有効幅を小さくした。
3. 網入りガラスを、防煙区画における間仕切り壁として使用した。
4. バルコニーが災害弱者の避難経路として有効に機能するように、出入口の床面の段差を2 cmとした。

〔No. 25〕 施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 可燃性の塗装材料の置場は、不燃材料で造った独立した平家建てとし、屋根は軽量な不燃材料で葺いた。
2. 塗料等の化学製品を使用したので、安全データシート(SDS)を常備し、記載内容の周知徹底を図り、作業者の健康・安全の確保及び環境保全に努めた。
3. 内装の解体工事において発生したポリ塩化ビフェニル(PCB)を使用した蛍光灯安定器を、特別管理産業廃棄物として処理した。
4. 合成高分子系の床シートの保管は、乾燥した室内に直射日光を避けて横積みとした。

〔N o. 26〕 床面積100m²の室内において、軽量鉄骨下地の施工に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。ただし、天井については、天井材の単位面積質量は20kg/m²を超えないものとし、システム天井ではないものとする。

1. 軽量鉄骨壁下地において、せっこうボード1枚張りとする場合のスタッドの間隔は、300mm程度とした。
2. 高さ3,000mmの室内間仕切り壁の下地として、軽量鉄骨壁下地材の種類は65形のものを用いた。
3. 水平な軽量鉄骨天井下地において、吊りボルトの間隔は1,200mm程度とし、天井の周辺部については端から200mm程度に配置した。
4. 水平な軽量鉄骨天井下地において、天井のふところが1,800mmであったので、補強用部材を用いて、吊りボルトの水平補強、斜め補強を行った。

〔N o. 27〕 塗装工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 塗装場所の相対湿度が85%以上であったので、塗装作業は行わなかった。
2. 木質系素地面に塗装する場合、素地の含水率が18%以下であったので、塗装を行った。
3. アルミニウム面は、つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(E P - G)とした。
4. 木質系素地面は、透明塗装とするためウレタン樹脂ワニス(U C)を用いた。

〔N o. 28〕 カーテン工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 2本のカーテンレールを使ってカーテンを交差させる場合、レールの交差部分を100mmとした。
2. カーテンのプリーツを美しくし、風に揺れるのを防止するため、裾にカーテンウェイトを入れた。
3. 二つひだの場合のカーテン生地を取付け幅に対する倍数は、2倍とした。
4. カーテンレールをダブルに取り付ける場合、カーテンボックスの奥行きを200mmとした。

〔No. 29〕 設備工事に関する次の用語の組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. 給排水設備 —— クロスコネクション
2. 電気設備 —— ジョイントボックス
3. 昇降機設備 —— ケーブルラック
4. 防災設備 —— 熱感知器

〔No. 30〕 各種工事とそれに用いる施工機器・工具との組合せとして、最も不適當なものは、次のうちどれか。

1. タイル工事 —— パワーストレッチャー
2. ガラス工事 —— グレイジングマシン
3. 仮設工事 —— トランシット
4. 塗装工事 —— エアーコンプレッサー

〔No. 31〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(旧四会)連合協定「工事請負契約約款」(平成23年5月改正)に照らして、最も不適當なものはどれか。

1. 受注者は、この契約にもとづいて、工事を完成して契約の目的物を発注者に引き渡すものとし、発注者は、その請負代金の支払を完了する。
2. 発注者が支給する工事材料もしくは建築設備の機器または貸与品は、発注者の負担と責任であらかじめ行う検査または試験に合格したものとする。
3. 発注者は、工事現場における施工の技術上の管理をつかさどる監理技術者または主任技術者を定め、書面をもってその氏名を受注者に通知する。
4. 受注者は、発注者に対して、工事内容の変更(施工方法等を含む。)に伴う請負代金の増額を提案することができる。

〔No. 32〕 材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ポリスチレンフォーム保温板は、製造法によりビーズ法と押出法の2種類がある。
2. ウレタン樹脂系塗床材は、耐摩耗性に劣る。
3. フローリングボードは、1枚のひき板を基材とした単層フローリングであり、直張り又は根太張り用として用いられる。
4. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)は、屋内のコンクリート面に用いられる。

〔No. 33〕 ボード類に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. パーティクルボードは、木材などの小片を主な原料として、接着剤を用いて成形熱圧した板である。
2. A級インシュレーションボードは、木材などの植物繊維を成形した繊維板であり、主に屋根下地や床下地の断熱用として用いられる。
3. 吸音用あなあきスレートボードは、フレキシブル板及び軟質板をあなあけ加工したものである。
4. けい酸カルシウム板は、温度や湿度による伸縮、反り等の変形が大きい。

〔No. 34〕 材料とその標準的な表面処理・仕上げとの組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. ステンレス板 —— ヘアライン
2. ALCパネル —— アクリルシリコン樹脂エナメル塗り
3. コンクリート —— モノリシック
4. 砂岩 —— 本磨き

〔No. 35〕 用語に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 「大規模の修繕」及び「大規模の模様替」は、「建築」に含まれる。
2. 老人福祉施設の用途に供する建築物は、「特殊建築物」である。
3. 物を運搬するための昇降機で、建築物に設けるものは、「建築設備」である。
4. 娯楽のために継続的に使用する室は、「居室」である。

〔No. 36〕 内装制限に関する次の記述のうち、建築基準法に適合しないものはどれか。ただし、いずれの場合も自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当せず、また、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 屋内に設ける避難階段の階段室の天井及び壁の室内に面する部分は、仕上げを不燃材料でし、かつ、その下地を準不燃材料で造った。
2. 平家建て、延べ面積100m²の自動車修理工場において、作業場の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。
3. 耐火建築物である平家建て、延べ面積3,500m²の図書館において、図書室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
4. 木造2階建て、延べ面積90m²の住宅(主要構造部は耐火構造でないものとする。)で、1階に存する火を使用する器具を設けた台所の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。

〔No. 37〕 「延焼のおそれのある部分」に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 延べ面積が1,000m²を超える木造建築物は、その外壁及び軒裏で延焼のおそれのある部分を防火構造としなければならない。
2. 準防火地域内にある木造建築物は、その外壁及び軒裏で延焼のおそれのある部分を準防火性能を有する構造としなければならない。
3. 準防火地域内にある建築物は、その外壁の開口部で延焼のおそれのある部分に、防火戸その他の政令で定める防火設備を設けなければならない。
4. 耐火建築物における外壁の開口部で延焼のおそれのある部分に設ける防火戸その他の政令で定める防火設備は、通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後20分間当該加熱面以外の面に火炎を出さないものでなければならない。

〔No. 38〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 主要構造部を耐火構造とした地上5階建てのホテルの避難階以外の階で、その階における宿泊室の床面積の合計が200m²である場合においては、その階から避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を設けなければならない。
2. 非常用エレベーターを設置している建築物には、非常用の進入口を設けなくてもよい。
3. 屋内に設ける避難階段の階段室の屋内に面する壁に窓を設ける場合においては、その面積は、各々1m²以内とし、かつ、所定の防火設備ではめごろし戸であるものを設けなければならない。
4. 主要構造部を耐火構造とした地上6階建て、延べ面積1,200m²の共同住宅について、敷地内には、屋外に設ける所定の避難階段及び所定の出口から道又は公園、広場その他の空地に通ずる幅員が1.5m以上の通路を設けなければならない。

〔No. 39〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 居室の天井の高さは、室の床面から測り、1室で天井の高さの異なる部分がある場合においては、その最高の高さによるものとする。
2. 地上3階建ての事務所の1階から2階に通ずる屋内階段(直階段)でその高さが3.5mである場合には、踊場を設けなくてもよい。
3. 専修学校における床面積90m²の教室には、採光のための窓その他の開口部を設け、その採光に有効な部分の面積は、9 m²以上とする。
4. 水洗便所で、採光及び換気のため直接外気に接する窓を設けない場合、これに代わる設備をしなければならない。

〔No. 40〕 建築設備に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、耐火性能検証法、防火区画検証法、国土交通大臣が定める構造方法及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 居室を有する建築物の換気設備についてのホルムアルデヒドに関する技術的基準において、機械換気設備の有効換気量(m³/時)は、原則として、その「居室の床面積(m²)」と「居室の天井の高さ(m)」の積に、住宅等の居室にあっては0.5を乗じて計算した必要有効換気量(m³/時)以上でなければならない。
2. 地上5階建て、延べ面積1,500m²の事務所(避難階は1階)の5階の居室には、非常用の照明装置を設けなければならない。
3. 共同住宅の各戸の界壁を貫通する給水管は、原則として、当該貫通する部分及び貫通する部分からそれぞれ両側に1 m以内の距離にある部分を不燃材料で造らなければならない。
4. 換気設備を設けない住宅の居室には、換気のための窓その他の開口部を設け、その換気に有効な部分の面積は、その居室の床面積に対して、 $\frac{1}{50}$ 以上としなければならない。

〔No. 41〕 防災に関する次の記述のうち、消防法上、**誤っている**ものはどれか。
ただし、いずれの建築物も地階を有しないものとし、高層建築物にも該当しないものとする。

1. 病院で使用するカーテンは、防災物品でなければならない。
2. 小学校で使用する布製のブラインドは、防災物品でなければならない。
3. 映画館で使用する暗幕は、防災物品でなければならない。
4. ホテルで使用するじゅうたんは、防災物品でなければならない。

〔No. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法施行令で定めるものを除く。)で**足りる**ものはどれか。

1. 倉庫から飲食店に変更
2. 小学校から保育所に変更
3. 事務所から美術館に変更
4. 共同住宅からホテルに変更

〔No. 43〕 消防用設備等に関する次の記述のうち、消防法上、**誤っている**ものはどれか。

1. 誘導灯の周囲には、誘導灯とまぎらわしい又は誘導灯をさえぎる灯火、広告物、掲示物等を設けてはならない。
2. 消火器具は、通行又は避難に支障がなく、かつ、使用に際して容易に持ち出すことができる箇所に設置しなければならない。
3. 避難器具は、原則として、避難に際して容易に接近することができ、階段、避難口等から適当な距離にあり、かつ、当該器具を使用するについて安全な構造を有する開口部に設置しなければならない。
4. 屋内消火栓設備を設置しなければならない防火対象物又はその部分の面積を所定の数値の2倍又は3倍の数値とする場合、壁の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とする範囲は、壁の床面からの高さが1.2m以下の部分を除いた部分とする。

〔No. 44〕 次の記述のうち、関係法令上、**誤っている**ものはどれか。

1. 「建築士法」に基づき、一級建築士事務所の開設者は、当該一級建築士事務所を管理する専任の一級建築士を置かなければならない。
2. 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づく特定建設資材とは、「コンクリート」、「コンクリート及び鉄から成る建設資材」、「木材」及び「ガラス」である。
3. 「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」に基づき、ぱちんこ屋の営業は、風俗営業に該当する。
4. 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に基づき、物品販売業を営む店舗は、特別特定建築物に該当する。

〔No. 45〕 次の建築物と用語との組合せのうち、**最も関係の少ない**ものはどれか。

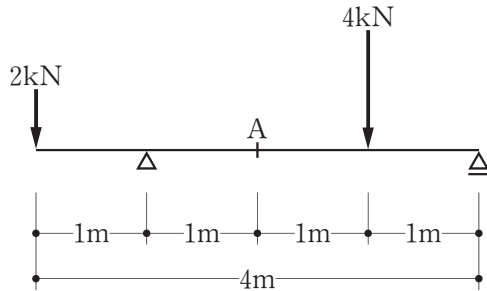
1. 美術館 —— 学芸員室
2. 劇場 —— ホワイエ
3. 学校 —— メディアセンター
4. ホテル —— クリーンルーム

〔No. 46〕 文化施設の計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. オペラ劇場において、可視限界距離を考慮して、最後部の客席から舞台の中心までの視距離を35mとして計画した。
2. コンサートホールにおいて、演奏者と聴衆との一体感を得ることを意図して、客席が演奏者を取り囲むシューボックス型の空間形式を採用した。
3. 映画館において、客席部分の1人当たりの床面積を、通路を含めて0.7m²として計画した。
4. 劇場において、舞台の床下の空間に、回り舞台やせりなどの機械設備が設置される奈落を計画した。

〔No. 47〕 図のような荷重を受ける単純梁のA点における曲げモーメントとして、正しいものは、次のうちどれか。ただし、曲げモーメントの符号は、梁の下側に引張力が働く場合を「+」とする。

1. +2 kN・m
2. 0 kN・m
3. -2 kN・m
4. -4 kN・m



〔No. 48〕 建築物の構造計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 構造体の層間変形などの変形を利用してエネルギー吸収を行う制振部材を建築物に組み込むことは、地震時の安全性を高めるのに有効である。
2. ピロティ形式を採用する場合、層崩壊しないようにピロティ階の柱の耐力及び靱性を大きくする。
3. 耐震診断における第2次診断法は、梁の変形能力などは考慮せずに、柱や壁の強さと変形能力などをもとに耐震性能を判定する診断手法である。
4. 同じ高さの建築物の場合、水平力に対する剛性は、一般に、鉄筋コンクリート構造より鉄骨構造のほうが大きい。

〔No. 49〕 壁の陶磁器質タイル張り工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 改良圧着張りにおいて、タイルの張付けは、窓や出入口まわりなどの役物を先に張り付けた。
2. 改良積上げ張りにおいて、タイルの張付けは、下部から上部へと順に張り上げた。
3. 内壁の接着剤張りにおいて、接着剤は、金ごてを用いて平たんに塗布したのち、所定のくし目ごてを用いてくし目を立てた。
4. 密着張りにおいて、タイルの張付けは、上部から下部へと連続して張り進めた。

〔No. 50〕 木造軸組工法における部材の接合箇所とその箇所に使用する接合金物との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 小屋梁と軒桁 ————— 羽子板ボルト
2. 垂木と軒桁 ————— かね折り金物
3. 引張りを受ける柱と土台 —— かど金物
4. 柱と筋かいと土台 ————— 筋かいプレート

